

2023年度(令和5年度)学校評価自己評価表

広瀬学園中学校区	校番 84 138	福山市立広瀬学園小・中学校
最終更新日	2024年(令和6年)1月20日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち,変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと,各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し,日々の授業を中心として評価・改善を進めながら,子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 学校が進めている取組内容について,概ね肯定的な評価をいただいた。情報発信をこまめに行っており,学校の様子が大体伝わってくる。	児童生徒の現状 広瀬地域から通学する児童生徒の他に,学校に隣接する児童養護施設や他の校区から通学する児童生徒が増加している。また,通常学級に在籍する発達障がいのある児童生徒の数が増加している。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	「基礎的な知識・技能」「課題発見・解決能力」「コミュニケーション能力」 「自立」夢や目標に向かって見通しをもちねばり強く行動できる姿 「共生」友達の良さを認め課題解決にむけて共に取り組む姿 小中合同行事を効果的に仕組み,異年齢交流や大人数での活動を行い,児童生徒の「やればできる」「やってよかった」と感じる体験を積みませ,自己肯定感を高める。
---	---	---	--

III 自校

ミッション 9年間の多様な学習活動を通して,一人一人の成長を大切に,「自立」と「共生」ができる人材を育成する
学校教育目標 心豊かで 主体的に学び たくましく生きる子どもの育成
現状 <児童生徒> 様々な背景をもった児童生徒や不登校傾向,大人数の集団に馴染めない等から,少人数の環境に期待を寄せられて転入学する児童生徒が多く在籍している。そのため,学力の定着に差が見られ,自分を表現することや人間関係を築くことに課題があり,自己肯定感が低い児童生徒が多い。 <授業> 小学校では,児童が主体的に授業に進める授業形態の取組や異年齢での「教える」「教わる」関わりを大切に取り組んでいる。 中学校では,基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させるために,具体物を使ったり,個に応じた指導に取り組んだりしている。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像	① ② ③	①「基礎的な知識・技能」②「課題発見・解決能力」③「コミュニケーション能力」 <小1~小4>基礎的な知識・技能を身に付け,友達と共有し,自分なりの考えを表現することができる。 <小5~中1>基礎的な知識・技能を着実に身に付け,仲間や友達と共有し,自分なりの考えを表現しながら,生活や他教科と関連付けて使うことができる。 <中2~中3>基礎的・基本的な知識・技能を着実に獲得しながら,他者と協働し目的に応じた解決策を導き出すことができる。 <小1~小4>学びたいことややってみたいことを見つけて,実際に活動したり考えたりすることができる。 <小5~中1>自ら課題を発見し,見通しをもって解決方法や学習経計画を考えて,よりよい方法で実行することができる。 <中2~中3>物事を多面的に見たり,経験や知識を活用したりする中で,新たな課題を発見し,よりよい 解決方法を選択することで,目的に応じた解決策を導き出すことができる。 <小1~小4>目的や立場を理解して,他者と協力して活動することができる。 <小5~中1>多様な他者と互いに考えを認め合いながら,協働することができる。 <中2~中3>多様な他者と協働することで,新たな考えを創造し,適切かつ効果的な解決策を導き出すことができる。
研究	テーマ 内容等	個別最適な学びをめざした授業づくり ～ 教科・学年の枠を超えた学びのデザインを通して ～ ○教科・学年の枠を超え,異学年集団での関わりを生かした学び ○指導の個別化・学習の個性化をデザインした単元計画 ○ICTの活用を通して学習履歴等を用いたきめ細かい指導・支援による個別最適な学びの推進
めざす授業の姿		○「なぜ,どうして?」「教えて!」「わかった,できた!」「もっとやりたい!」などの声のする授業 ○課題に向けて解決への手だてや方法を選択したり,個々の理解度に合った学び方をデザインしたりして,自分の考えを深めていく授業

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立広瀬学園小・中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る 取組状況	70% 以上 達成 評価	70% 以上 達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 以上 達成 評価	70% 以上 達成 評価	総合 評価	改善方策
2	自分の課題解決に向けて、主体的に学び、個々の学力を定着させる。	★	継続	①児童生徒に基礎的・基本的技能を活用させ、個々の学力を伸ばす。 ②特別支援教育の視点を生かした授業づくりを進める。	○「指導の個別化」支援が必要な児童生徒により重点的な指導を行う。 ○「学習の個性化」児童生徒の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動を提供する。 ○視覚的支援・聴覚的支援・体感的支援・意欲的支援等を効果的に取り入れる。	○個別のサポート計画全学年実施100% ○児童生徒アンケート「自己の成長が実感できた」肯定的評価90%以上 「授業で考えることは面白い」肯定的評価70%以上	○アンケートより ・「自己の成長が実感できた」(小89.8% 中78.3%) ・「授業で考えることは面白い」(小92.3% 中64.8%)	3	3	○個別のサポート計画の質を上げる。 →日々、職員一人一人が子どもをじっくりと見る、知る。 →職員チームで定期的に協議し、個に応じた寄り添い方を修正し続ける。 ○授業や帰りミーティング等において、子ども自身による振り返りをより充実させる。 ○1時間の授業の中で生徒一人一人に個別に声をかけるなど生徒との対話を大切にする。	○アンケートより ・「自己の成長が実感できた」(小90% 中94%) ・「授業で考えることは面白い」(小93% 中75%)	3	3	3	○個別のサポート計画は、試行錯誤を重ねて進めてきており、今後も質の向上を目指して教職員間で協議を重ねていく。 □日々の授業において、子どもたちが教科としての楽しさを実感できるよう、①研修等を含め教材研究を深める、②広瀬タイムがより確かな学びになるよう各教科での学びに明確につなげていく、等に今後は重点的に取り組む。 □「子どもをみる」ことを授業づくりの柱とし、個の状況を踏まえた取組を進める。
2	広瀬タイムを通して、自己選択・決定をすることができる。	★	継続	③広瀬タイムで、課題解決に向けて協働し、互いを認め合いながら学び、肯定的な評価ができる。 ④小中合同の学校行事等を充実させる。	○広瀬タイムでの課題をSDGsと関連付けてとらえ、課題発見・解決学習を進める。 ○児童会生徒会活動や行事において児童生徒が主体的に計画・活動を設定し、取り組めるようサポートする。	○児童生徒アンケート「自分の考えは認められている」肯定的評価85%以上 「SDGs達成に貢献している」肯定的評価80%以上 ○行事における児童生徒満足度90%以上	○アンケートより ・「自分の考えは認められている」(小89.4% 中89.1%) ・「SDGs達成に貢献している」(小86.6% 中62.1%) ・「学校行事は楽しかった」(小100% 中91.9%)	3	3	○広瀬学園祭に向け、地域や保護者と関わる中で、自分の役割や良さを実感できる機会を設ける。 ○児童会、生徒会担当職員の連携を深める。 ○職員が目的を明確に持ちながら計画立てをすることで、「子どもがつくる」行事の実現に向け、子どもに寄り添う。	○アンケートより ・「自分の考えは認められている」(小93% 中94%) ・「SDGs達成に貢献している」(小89% 中53%) ・「学校行事は楽しかった」(小98% 中100%)	3	3	3	□主に広瀬タイムを通して自己肯定感の向上に一定の成果を残すことはできたが、今後はその力を、日々の授業の中でよりよく活用する場をつくる必要がある。 □行事の運営や内容等について、子どもの力を見ながら役割を分担したり、共に企画運営をしたりすることで、「子どもがつくる」行事になるよう取り組む。

2	地域・保護者から信頼される学校教育を推進する。	★	継続	⑤地域、保護者へ積極的に学校情報を発信する。 ○様々な機会を通して地域・保護者への情報発信(各種便り・HP等)を積極的に行う。 ○コミュニティスクールを活用し、学校教育活動を協働して行う。	○保護者学校満足度85%以上 ○教職員アンケート「地域人材を活用して教育活動を行った」肯定的評価80%以上	○アンケートより「学校に満足している」(小100% 中91.2%) ・「生徒の様子は通信やHP等によって知ることができている」(小96.2% 中94.2%) ○アンケートより「地域人材を活用して教育活動を行った」(小100% 中66.7%)	3	3	○今後も学校からの情報を、在籍家庭のみならず市内外に発信するとともに、保護者・地域との良好な関係を構築していく。 ○広瀬タイムや教科学習において、子どもの学びの状況を踏まえ、子どもたちと共に、地域人材とのコラボレーションを進めていく。	○アンケートより「学校に満足している」(小96% 中90%) ・「生徒の様子は通信やHP等によって知ることができている」(小100% 中90%) ○アンケートより「地域人材を活用して教育活動を行った」(小100% 中75%)	3	3	3	○通信やHP等で子どもの様子を伝えるだけでなく、「個別のサポート計画」を通し、子どもの頑張りの姿や今取り組んでいることなどをこまめに伝えていく。 ○今後は、広瀬タイム「個別探究」を中心に地域人材を活用し、子どもの様々な興味に合わせた探究活動を深めていくために、学校運営協議会等を活用しながら、様々な方面で地域人材を探していく。
2	働き方改革の意義を理解し、自ら実践することができる。	★	継続	⑥業務内容を精選しながら質を高め、年間を通して計画的に業務を遂行する力を付ける。 ⑦資質向上のための研修を計画し、自己研鑽を積む。	○定時退校日を厳守するとともに、見直しをもった業務管理を進める。 ○校内研修・校外研修(市教研・県教研・先進校視察)を自己研鑽の場とする。	○時間外勤務時間、月45時間を超える教職員ゼロ ○教職員アンケート「研修により、新しい発見や取組を見直すことがある」肯定的評価90%以上	3	3	○在校等時間記録表より、 ・「時間外勤務時間が月45時間を超えた教職員」(延べ小0名 中3名) ○アンケートより「研修により、新しい発見や取組を見直すことがある」(小100% 中77.8%)	○在校等時間記録表より、 ・「時間外勤務時間が月45時間を超えた教職員」(延べ小0名 中4名) ○アンケートより「研修により、新しい発見や取組を見直すことがある」(小100% 中75%)	3	3	3	○自分の担当職務への意識や、個に合った時間の使い方などへの意識を高めることで、メリハリの効いた業務遂行を行い、働き方改革を充実させる。 ○各教職員のキャリアに応じ、研修や視察の推進などを通して、教職員の学びを充実させる。 ○子どもの学びの充実に向け、業務の量的な軽減のみならず、質的向上を図ることで働き方改革を加速させる。 ○働き方改革の中で、業務の精選、仕事のスマート化は行ってきたが、子どもの学びの質の向上を並行して行う必要がある。 ○業務の本質についての教職員の議論の場を増やすことで、各業務の担当者の「自分事」意識を高める。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。